

古民家ギャラリーに

大野市改修 市民所有の絵展示

築130年以上の古民家を改修した大野市のギャラリー「COCONO(ココノ)アートプレイス(元町)」が21日オープンする。かつて同市で広がった若手画家を支援する「小コレクター運動」で市民が購入した絵画や、市ゆかりの画家の作品を展示していく。ショップやカフェもあり、市街地に新たなにぎわいの拠点が生ずる。
(栗原愛)



古民家の風情を生かした「蔵」ギャラリー＝19日、大野市元町

「地元若手も応援」

あす開館

古民家は木造一部2階建てで、県の「ふくいの伝統的民家」に認定されている。かつて書店や住居として使われ、2012年に市に寄贈された。

改修でも母屋、離れ、蔵の配置はそのままとし、白壁を基調に、天井裏の垂木や梁をむき出しにして古民家の風情を生かした。展示室は、主に企画展を行う「オモヤ」



築130年以上の古民家を改修したCOCONOアートプレイス

市民が所有する作品を展示する「蔵」「ハナレ」の3カ所に設けた。延べ床面積は約480平方メートル、事業費は1億5520万円。
小コレクター運動は無名の若手画家の作品を購入して支援する活動で、1950年代ごろ全国で広まった。市内では、美術教諭だった故堀栄治さん「清和町」が、運動の第一人者と関係が深かった縁で活発化。「虹のアーティスト」として知られる鬮(あひら)さんが無名だった58年には、市民たちが渡米資金を援助した。
鬮(あひら)さん(1924～2014年)、池田満寿夫さん(1934～97年)らの作品など市民が所有する絵画は数百点を超すとみられ、現在も市民と鬮(あひら)さんらとの交流は続いている。

ギャラリーでは、市民らから借り受けた作品を順に入れ替えながら紹介していく。市の担当者は「いずれは現代版の小コレクター運動のように、地元若手作家を応援する場所にしていきたい。まちなかの回遊性にもつながれば」と期待した。21日からはオープン企画として鬮(あひら)さんの近作、恐竜シリーズ14点が展示される。営業時間は午前9時～午後5時。月曜定休。ギャラリーは200円、中学生以下無料。